

2022年度は、新型コロナウイルスのオミクロン株流行が確認されるなど、いまだ油断できない中で生活でした。一方、ワクチン接種も進み消費活動における規制緩和が進められた1年でもありました。スポーツ界では、日本代表選手たちが冬季オリンピックやサッカーワールドカップなど目覚ましい活躍で私たちを楽しませてくれました。一方、本学の卒業生であり、長年日本の体操界を支えた内村航平選手が現役引退を表明した年となりました。

体育研究所雑誌vol.47では、プロジェクト1および3から、高齢者の健康に関する検討として、サルコペニア予防に関する動物モデルを用いた遺伝的な影響、オンライン指導での筋力トレーニングがメンタルヘルスに及ぼす影響、睡眠習慣が動脈機能や体力に及ぼす影響について報告しています。また、プロジェクト2からは、子どもの健康に関する検討としてキャンププログラムによる睡眠・覚醒リズムの変化や立機を使った宿題がストレス反応に及ぼす影響、認知機能に対する生活背景について報告しています。さらに、プロジェクト4および5からは、女性アスリートの月経随伴症状の現状調査や新たな乳酸モニタリング法の検討、ハンドボールにおける試合中のスコアを基にしたトレーニングメニューの検討、ボディービルダーの減量が心身に与える影響について報告しています。基礎実験から実践的・教育的な調査、分析まで「体育」に関する幅広い研究成果をご報告できました。体育研究所の成果が研究者のみならず、多くの方の生活や指導活動などを盛り上げることに繋がれば幸いです。

また、野井先生を中心として子どもの心身の健康に関する数多くの研究を行ってきたプロジェクト2「子どものからだに関する研究」は、2022年度をもって体育研究所プロジェクトから独立し、2023年度に設立された「子どものからだ研究所」に活動の場を移しています。プロジェクト2に携わっていただいた先生方にはこの場を借りてお礼申し上げます。

末尾にはなりませんが、体育研究所雑誌vol.47の完成にあたり、ご協力いただきました体育研究所所員の先生方、研究員・事務員の方々には心よりお礼申し上げます。

体育研究所 助教  
橋本佑斗